



医療シンポジウム「医療改革と経済成長」

日本が財政難の中セーフティネット制度を拡充し経済成長率を高めるためには医療改革が重要な鍵となると思われる。なぜなら、国民の医療ニーズは高まる一方であり、加速する医療技術進歩と相まって諸外国においても医療セクターが経済成長のエンジンになっているからである。

わが国の医療制度はWHOにより世界一との評価を受けてきた。しかし、最近では医師不足による地域医療崩壊、放漫経営を続ける公立病院の改革の遅れ等が指摘されるようになった。また、医師以外の医療専門人材の機能分化や育成が不十分であり、医療経営資源の需給のミスマッチが拡大している。その大きな理由の一つとして、地域医療経営のガバナンスを欠いている点があげられる。そこで、海外の医療改革の動向も踏まえつつ、わが国における医療改革のあるべき姿を探求することとしたい。

概要・プログラム

日時: 2010年7月13日(火) 13:00-17:40 (12:30より受付開始)

場所: 国立がんセンター築地キャンパス内 国際研究交流会館 3F 国際会議場 (東京都中央区築地5-1-1)
(交通案内: <http://www.ncc.go.jp/jp/about/access.html#01>)

言語: 日・英(同時通訳あり)

開会挨拶 13:00~13:10

キャノングローバル戦略研究所理事長 福井俊彦

基調講演 第一部 13:10~14:40

① 13:10~13:40

「医療改革と経済成長～医療費増加と財政再建を両立させる具体策～」
松山幸弘 キャノングローバル戦略研究所主席研究員

② 13:40~14:10

「病院完結型医療体制から地域完結型医療体制へ」
西澤延宏氏 JA長野厚生連・佐久総合病院副院長

③ 14:10~14:40

「地域医療と地域経済を考える」
神野正博氏 社会医療法人財団董仙会 患寿総合病院理事長

コーヒーブレイク 14:40~14:55

基調講演 第二部 14:55~15:55

④ 14:55~15:25

「統合ヘルシアネットワークと米国の医療改革」
Mr. Howard P. Kern, President & Chief Operating Officer, Sentara Healthcare, Virginia, U.S.A.

⑤ 15:25~15:55

「オーストラリアにおける次期医療改革と医療公営企業の役割」
Dr. Jeffrey Braithwaite, Professor & Foundation Director, Australian Institute of Health Innovation, Faculty of Medicine, University of New South Wales, Australia

コーヒーブレイク 15:55~16:10

パネルディスカッション／質疑応答 16:10~17:40

テーマ「医療改革と経済成長」

パネリスト:

西澤延宏氏

神野正博氏

Mr. Howard P. Kern

Dr. Jeffrey Braithwaite

コーディネーター: 松山幸弘

基調講演① 松山 幸弘**「医療改革と経済成長～医療費増加と財政再建を両立させる具体策～」**

日本経済と社会を立て直すためには医療改革を通じて医療分野を経済成長のエンジンに転換することが必須要件である。そこで、諸外国における医療改革と比較しながらわが国の医療改革の課題と進むべき方向を述べる。

基調講演② 西澤 延宏氏**「病院完結型医療体制から地域完結型医療体制へ」**

わが国を代表する地域医療ネットワークの中核病院であるJA長野厚生連・佐久総合病院の現状と課題、そして基幹医療センター建設によって目指す将来ビジョンを解説する。

基調講演③ 神野 正博氏**「地域医療と地域経済を考える」**

2007年の医療法改正により2008年4月から認可が開始された社会医療法人は、地域医療ネットワークで重要な役割を担うことが期待されている。そこで、社会医療法人と公立病院の機能分担などわが国における地域医療ガバナンスの現状を考察、各都道府県で取り組みが始まった地域医療再生計画の課題についても論じる。

基調講演④ ハワード・カーン氏**「統合ヘルスケアネットワークと米国の医療改革」**

センタラ・ヘルスケアは、SDI社が毎年実施しているIHN（統合ヘルスケアネットワーク、全米に593存在）評価ランキングで2010年は第1位に輝いた。そこで、オバマ大統領による医療改革が進められる中でセンタラ・ヘルスケアの実践する成長戦略、目標とする地域医療ネットワークの仕組みについて解説する。

基調講演⑤ ジェフリー・ブライスウェイト博士**「オーストラリアにおける次期医療改革と医療公営企業の役割」**

オーストラリアは、医療財源と医療提供体制が共に公的制度化中心の国である一方で、民間医療保険や民間病院の活用も行っている。そこで、医療公営企業を核にした地域医療ガバナンスの仕組み並びにケビン・ラッド首相が2010年3月に発表した医療改革について説明する。

パネルディスカッション「医療改革と経済成長」

- ①医療の競争政策について⇒地域医療圏で中核機能を担う医療事業体と開業医、民間営利病院、その他公立病院との関係を考察する
- ②施設配置、設備投資における地域住民の意見の反映、コンセンサス作りについて
- ③医療IT投資について
- ④癌医療地域ネットワークの現状と課題
- ⑤医療専門人材の確保、育成について
- ⑥参加者とのQ&A

シンポジウムに関するお問合せ

キヤノングローバル戦略研究所

シンポジウム事務局

TEL:03-6213-0550 FAX:03-3217-1251

Eメール: economics@canon-igs.org

西澤 延宏氏

JA長野厚生連・佐久総合病院副院長 専門：呼吸器外科

1957年生まれ、長野県出身

1982年千葉大学医学部卒業、同年佐久総合病院研修医として就職

1986年国立がんセンターへ国内留学

1992年佐久総合病院外科医長・呼吸器外科医長・研修医教育科医長

2001年副診療部長

2008年診療部長

2010年副院長に就任、現在に至る。

神野 正博氏

社会医療法人財団董仙会（とうせんかい） 恵寿総合病院理事長

1980年日本医科大学卒医籍登録。1986年金沢大学大学院医学専攻科卒（医学博士）。金沢大学第2外科助手を経て、1992年恵寿総合病院外科科長、1993年同病院院長、1995年特定医療法人財団董仙会（2008年11月より社会医療法人財団に改称）理事長に就任。

専門は消化器外科。全日本病院協会副会長、日本医療法人協会理事、四病院団体協議会総務部会員、石川県医師会副会長、石川県病院協会理事、日本医療機能評価機構評議員。2008年3月～11月社会保障国民会議サービス保障分科会（内閣官房）委員、同年7月～IT新改革戦略評価専門調査会医療評価委員会委員（内閣府）、2009年5月～第7次看護職員需給見通しに関する検討会委員（厚生労働省）。

ハワード・カーン氏

センタラ・ヘルスケア社社長兼最高業務執行役員

1978年ニューヨーク州立大学にて学士取得、1981年バージニア医科大学にて医療経営管理学修士取得。1980年センタラ・ヘルスケア社に入社。ACHE（医療事業体経営者約3万人の会員で構成する団体）のフェロー（略称：FACHE）、センタラ・ヘルスプラン社（医療保険子会社）、バージニア州病院医療協会、VHA（非営利病院・介護施設の団体）セントラル・アトランティック、バージニア・シェアード病院サービス社、バージニア医療ネットワーク、ウエストミンスター・カンタベリー（バージニア州にある退職者居住施設の名称）理事を務める。2003年バージニア州知事よりノーフォーク州立大学の外部理事の任命を受け、現在、同大学の財務、監査、指名委員会議長。その他、研究・テクノロジー委員会メンバー、バージニア医科大学医療経営学部の客員教授等、様々な専門家組織やコミュニティ組織のメンバーを務めている。

ジェフリー・ブライスウェイト博士

オーストラリアニューサウス・ウェールズ大学医学部

オーストラリア医療イノベーション研究所教授兼財団理事長

ジェフリー・ブライスウェイト教授は、医療サービス組織研究の第一人者として国際的な名声を得ている。その研究活動領域は、急性期ケア施設のカルチャーや構造、医療事業体における経営管理とその変遷、医療の質と安全に関する調査、諸外国の状況に関わる論文審査や調査プロセスへの貢献、医療サービスの構造改革に関する研究に及んでいる。経営管理とリーダーシップの概念並びにエビデンスを臨床領域の研究に応用したことで知られ、ケアに対する組織的、社会的、チーム的アプローチに関する非常に多くの文献作成に貢献。審査した研究論文は250を超え、発表論文数も400に及んでいる。これらの研究成果の重要性はオーストラリア国内外で高まってきている。国内外の会議、ワークショップ、シンポジウム等での講演は400回を超え、同教授の研究調査を前提とした理論は、今や共通認識となっている。

松山 幸弘

キヤノングローバル戦略研究所主席研究員／千葉商科大学大学院政策研究科客員教授／

文京学院大学大学院経営学研究科客員教授

1975年3月東京大学経済学部経営学科卒業、1992年2月著作「米国の医療経済」で九州大学から経済学博士号取得。1975年4月より生命保険会社に勤務、1999年4月～2005年6月株式会社富士通総研経済研究所主席研究員、2005年7月～2008年3月民間医療法人専務理事、2007年10月～千葉商科大学大学院政策研究科客員教授、2008年10月～2009年3月、総合病院国保旭中央病院顧問、2009年4月よりキヤノングローバル戦略研究所主席研究員。日本銀行金融研究所客員エコノミスト（1991年）、厚生省HIV疫学研究班員（1993年～1994年）、厚生労働省・社会保障審議会医療部会臨時委員（2001年）、厚生労働省・医療費の将来見通しに関する検討会委員（2007年）等を歴任。